

トヨタ財団「市民社会プロジェクト助成」打ち切りに関する経過報告

経過報告

2003年4月から、アリスセンター、せんだい・みやぎNPOセンター、市民活動センター神戸の3団体が共同で取り組んできた「NPOの政策提案力の開発とNPOの参画を保障する自治体の政策形成システムの提案」プロジェクト。このプロジェクトは、トヨタ財団の「市民社会プロジェクト助成」の対象となっていました。この助成は、非公募で、3年間の継続（1年ごとに報告書、申請書を出し、財団理事会で承認されることが必要です。）のプログラムです。そして、財団と団体が共通のテーマに取り組むという共同事業的な位置づけであったと理解していました。

ところが、助成の1年目が終わろうとしていた2004年3月、財団の担当理事と担当者から、助成のしくみが変わり市民社会プロジェクト助成というプログラムはなくなるので、これからは公募で応募してほしい、という話がアリスセンターにありました。トヨタ財団が設けた構想諮問委員会（後述）の意見を受けつつ、助成のしくみの大幅な見直しをしているとのことでした。しかし、助成が開始されるときには、そのような話は何も聞いておらず、私たちは、3年間の計画も財団に提出した上で、助成の決定を受けています。財団の助成のしくみをどのようにするかは、財団の正統な意思決定のもとで判断されることであり、外部が口をはさむことではないと考えます。しかし財団と助成対象である私たちの双方が、3年間という共通認識をもって始めたことについて、財団が一方向的に打ち切るというのは納得できません。予定していたプロジェクトの進行が難しくなることは避けられませんし、3年間の見通しをもってこのプロジェクトに参加してくれていた多くの方々にも説明ができません。また、投入した助成の効果と言う点では、財団にとっても大きな損失になると思われます。そこで、アリスセンターでは、こうした考えを示しつつ、経過措置を設けたり、他の継続的な助成プログラムに振り返るなど、助成が継続されるよう検討してほしいと伝えました。

しかし、その後財団からは、何の連絡もなく、1年目の報告書を提出した5月末以降再度連絡したところ、「3月に伝えた通り」の一点張りで、継続の可否について十分検討していただいた様子も伺えませんでした。

トヨタ財団は、公募の「市民活動助成」でも、先駆的かつ行政が支援しにくいテーマを積極的に助成してきており、市民活動関係者の間でも高い評価が定着していたと思います。それだけに今回のような誠意が感じられない対応は、大変残念に思います。

結果的に、トヨタ財団からの「市民社会プロジェクト助成」は2003年4月～2004年3月の1年きりとなってしまいました。アリスセンターでは、今後も、自主財源や他の助成などを確保し、他の2団体とも情報交換や連携をしながら、NPOの政策提案という重要なテーマに取り組んでいこうと考えています。ぜひ、引き続き、ご協力・ご参加ください。

財団とのやりとりに時間が必要だったこともあり、皆様にご報告が遅くなったことをお詫びします。

2004年11月11日付けで、3団体代表者連名で、トヨタ財団の会長及び理事長宛に、3団体の考えを文書でお送りしました。